

(独立行政法人教職員支援機構委嘱事業)

教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業

## 実 施 報 告 書

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| プログラム名   | 新聞を用いた質問づくりのグループワーク「ハテナソン」実践教員育成研修                                                                                                                                                                                                                                        |
| プログラムの特徴 | 米国発祥で国内では大学を中心に広がり始めている、新聞を使った質問づくりのグループワーク「ハテナソン」を授業で実践できる教員を育成する。ハテナソンは、疑問を表す「はてな」と「マラソン」を組み合わせた佐藤賢一・京都産業大教授の造語で、「自ら問い、考える力」を育むねらいがあり、2020年度に始まる次期学習指導要領の柱「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の1手法として注目されている。従来の課題解決型授業ではなく、変化の激しい時代を生き抜くために必要な「課題発見能力」を磨く、課題発見型授業を行うためのツールでもある。 |

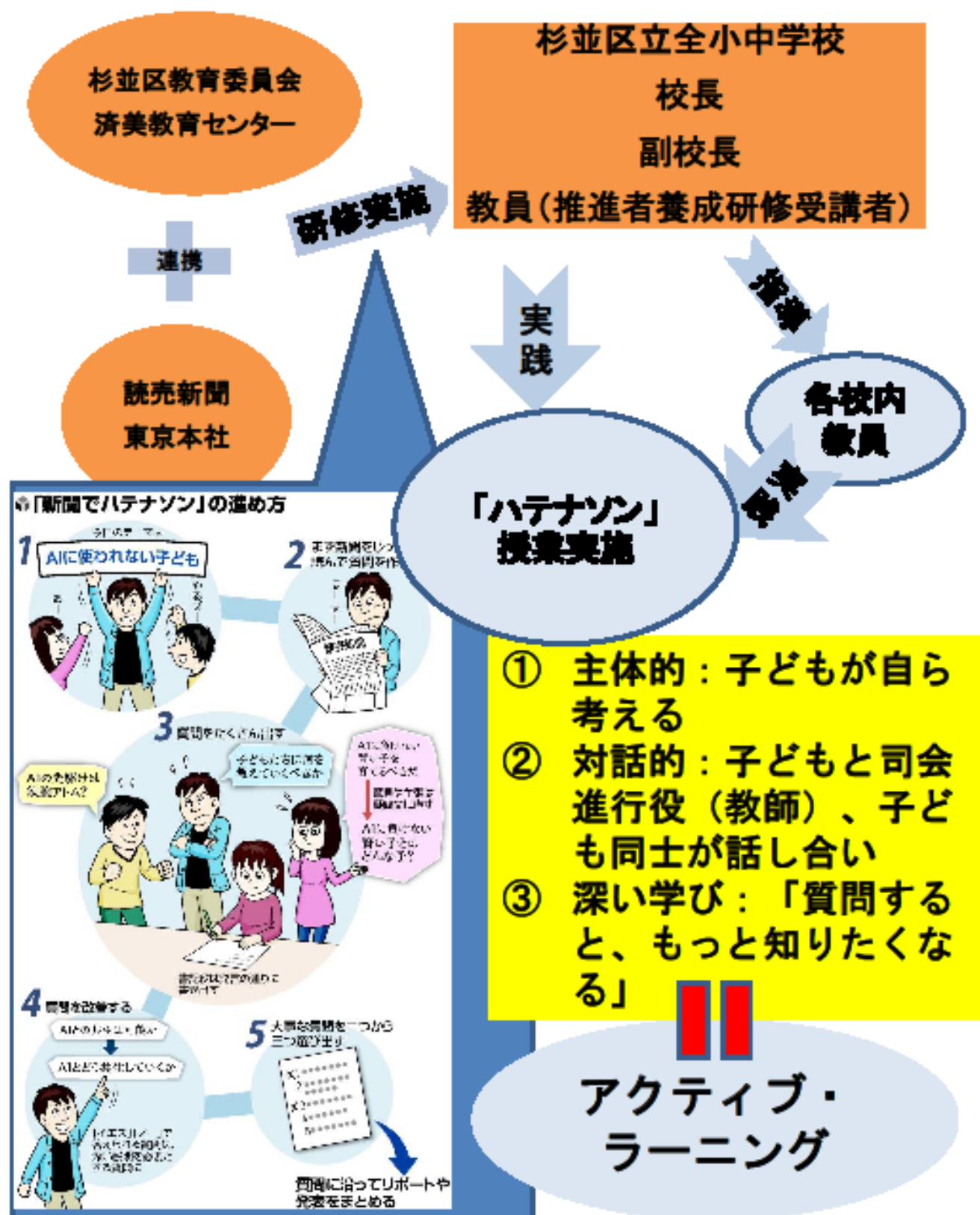
平成30年 3月

読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局

daigaku2014@yomiuri.com

03 - 3217 - 1484

# グループワーク「ハテナソン」 研修プログラムの概要



## 開発の目的・方法・組織

### 1) 開発目的

本事業の目的は、新聞を読んで質問をつくり、班ごとにその質問を洗練させ、その質問への答えを見つける調べ学習を行うグループワーク「ハテナソン」を授業に取り入れる教員の育成にある。教員自身が「質問する力」、つまり想像力・思考力の大切さを再認識するとともに、「ハテナソン」の授業実践を通じて児童・生徒に質問する力を身につけさせることの重要性を認識し、アクティブ・ラーニングの1手法としてグループワークを積極的に実践するようになり、結果として授業の質が向上する——という成果を目指している。

新聞を使ったハテナソンの原型である「質問づくり」の方法は、米国の住民運動の指導者、ダン・ロステイン氏著の「たった一つを変えるだけ」（新評論社）を参考にしている。ロステイン氏は、貧困層の住民が問いを発することができないために必要な情報や社会的支援を得られない状況を目の当たりにし、貧困層の大人を教育する手法として、質問づくりのグループワークを開発した。

新聞を使ったハテナソンは、この質問づくりのグループワークを日本の教育現場向けに洗練させた教育手法で、京都産業大や帝京大、上智大などの授業に取り入れられている。

### 2) 開発の方法

本プログラムは、東京都杉並区教育委員会との連携・協働のもと、杉並区立済美教育センターが主催する主として主任教諭以上の職層を対象とする指導方法研修「研修番号：C-I-5 新学習指導要領を踏まえた研修 平成29年度重点研修『主体的・対話的で深い学びのための指導方法の研修(3回)』」に位置づけていただいた。初回の4月研修で、

- 1、(宿題1)新聞購読期間のうち、最低14日間分の社説を読む
- 2、(宿題2)気になった社説5本について、疑問に思ったこと(質問)をできるだけ多く(社説1本当たり15点を目標に)書き出しておく
- 3、来年1月に郵送予定のハテナソン研修に関するアンケート調査に回答、返送する
- 4、可能であれば、杉並区立神明中学校の総合的な学習の時間(毎週金曜日)に行われるハテナソン授業を視察する

という課題を課した。

指導方法研修では、初回の4月研修でジグソー法、8月の第2回研修ではオランダで盛んなイエナプラン教育を教材に実践的な演習を行い、各教員について第3回研修でのグループワークに備える素地をつくった。

秋に実施した第3回研修で、実際に「ハテナソン」を体験した。

### 3) 開発組織

| No | 所属・職名                      | 氏 名                | 担当・役割           |
|----|----------------------------|--------------------|-----------------|
| 1  | ○読売教育ネットワーク事務局<br>事務局長     | 早乙女 大（5月～<br>貞広貴志） | 事業全般の統括         |
| 2  | 専門委員                       | 松本 美奈              | 研修システム開発        |
| 3  | 次長                         | 青山 健一              | 総務・企画、事業会計全般    |
| 4  | N I E 企画デザイナー<br>○杉並区教育委員会 | 秋山 純子              | 研修システム開発        |
| 5  | 教育長                        | 井出 隆安              | 事業全般への助言        |
| 6  | 済美教育センター所長                 | 白石 高士（4月～<br>平崎一美） | 研修システム開発に係る指導助言 |
| 7  | 統括指導主事                     | 大島 晃               | 研修システム開発に係る指導助言 |
| 8  | 主任研究員                      | 山口 裕也              | 研修システム開発に係る指導助言 |
| 9  | 神明中学校長                     | 杉山 善之              | 研修システム開発に係る指導助言 |

#### 「ハテナソン研修」開発の実際とその成果

##### 1) 研修の背景とねらい

本プログラムで普及を目指している、新聞を読んで質問を考え、その答えを自ら探すグループワーク「ハテナソン」は、「主体的・対話的で深い学び」「読解力向上」など少なくとも5点の教育・教育素材を児童・生徒に提供することになると考えている。

#### 「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）

グループワーク「ハテナソン」は、2020年度から順次実施される小中高校の次期学習指導要領に盛り込まれた「主体的・対話的で深い学び」（アクティブ・ラーニング）という課題にこたえる教育手法として最適である。

このグループワークは、教員はテーマを示すだけで、一切質問をしない。質問をするのは児童・生徒自身で、毎日読んでいる新聞を教材に質問を考え、グループ内で披露し合い、見直しを繰り返すことで質問自体を洗練させる。洗練させた質問に答える形でレポートを完成させるーという流れだ。

質問を考え出すためには、まず自ら知識を持つことが必要で、このグループワークに参加した子どもたちは、知識への欲求を膨らませ、よりよい質問を考え出し、よりよい答えにたどりつこうと自ら努力するようになる。さらに、その知識を表現する力、自分なりの言葉で活字にする力、構成力も必要となる。その根底には「伝えたいこと」があるはずで、子どもたちは質問を考え出す過程で、そうした力を持ち、伝えたいことを相手にわかるように表現することの大事さを学ぶようになる。

またこのグループワークを実践することによって、従来、重要性が指摘されてきた課題解決能力だけでなく、変化の激しい時代を生き抜くための「課題発見能力」を育むことになると考える。

なお、質問を考え出すためには知識が必要ではあるものの、特に小学校低学年では、体験をもとに質問を考え出させることで、このグループワークの実践が可能だと考えている。

## 読解力、書く力の向上

このグループワークは、次期学習指導要領で重要課題とされる「読解力向上」の取り組みとしても有効だ。読解力低下が問題視される中、多様な話題を扱った新聞の購読は、論理的な文章に触れる機会になる。また、グループワークでは書記を決め、各自の質問をホワイトボードに書き出すことになる。質問は各自で考えて手元のノートに書き出すことになるので、頭に浮かんだ疑問を質問として書き出す過程で「書く力」の向上にもつながると考えられる。

## 「社会に開かれた教育課程」の実践

さらに、次期学習指導要領で初めて置かれた「前文」に盛り込まれた「社会に開かれた教育課程」との要請にも合致する。前文は、「よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる」とうたっている。本事業は、社会の一員である企業と、東京都杉並区教育委員会とが理念・目標を共有し、協働してよりよい教育を目指す取り組みである。なお、新聞は、その社会に生じた出来事をリアルタイムで報道している教材でもある。

## 教材としての新聞

次期学習指導要領では、学習の様々な場面で新聞を活用することが取り上げられている。昨年、選挙の投票年齢が18歳以上に引き下げられ、小中学生の段階から主権者教育に取り組むことが重視されていることから、その教材としても期待されている。

国語の指導要領では、小学校第5・6年で、読む能力を育成するため、「新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動」が挙げられている。

中学では、新聞から集めた情報を使って自分の考えを发表することや、あるテーマについて、複数の新聞記事を比較して、討論したり文章にまとめたりする活動が想定されている。

社会は小学校第5年で、新聞などのメディアが「生活に大きな影響を及ぼしていること」について学び、情報を正しく判断することが求められている。中学でも、現代社会の課題を理解するために、ふだんから新聞を読む習慣を身につけることが推奨されている。

## 高大接続改革の実践

義務教育である小中学校も、政府が進めている大学入試と高校、大学教育を一体的に改革する「高大接続改革」と無関係ではない。新学習指導要領（中学）は、「高等学校学習指導要領を踏まえ、高等学校教育及びその後の教育との接続が可能となるよう工夫」することを求めている。

その高大接続改革の目玉は、2020年度から大学入試センター試験に代わって導入される「大学入学共通テスト（仮称）」で、その実施方針案には、国語と数学で記述式問題を取り入れることや、英語で民間の資格・検定試験を活用することなどが盛り込まれている。文部科学省の角田喜彦・高等教育局大学振興課長は、「大きく変革する社会のなか、自分の頭で考え、主体的に行動できる子供を育てるために必要な改革だ」と意義を強調している。グループワーク「ハテナソン」は、この「自分の頭で考え、主体的に行動できる子ども」を育成するために適切な手法である。

## 2) 「ハテナソン研修」モデル事業の対象、人数、期間、会場、講師

【対象】杉並区内の各小中学校で主体的・対話的で深い学びの推進を中心的に担う教員（計64人）

【人数】H29・10・19＝29人、H29・11・06＝38人

【期間】両日とも14時～15時55分

【会場】杉並区立済美教育センター会議室

【講師】松本美奈・読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局専門委員

## 3) 研修項目の考え方

研修受講者には、杉並区立済美教育センターが主催する平成29年度重点研修「主体的・対話的で深い学びのための指導方法の研修（3回）」の初回（4月）で、

1、（宿題1）研修までに最低14日間分の社説を読む

2、（宿題2）気になった社説5本について、疑問に思ったこと（質問）をできるだけ多く（社説1本当たり15点を目標に）書き出しておく

という課題を課した。それにより、ハテナソン研修の前に新聞になじんでもらうことで、実質60分間の研修でも濃密な内容となることを目指した。また、研修を受ける前と受けた後とで、思いつく質問の数が劇的に増えるという自覚を研修受講者に持ってもらうことを目指した。新聞社が説得力を持たせようと練り上げた社説を素直に読むと、思いつく質問は数点、という場合が多く、研修受講者の多くもそういう感想を話していた。ハテナソン研修を受けると、「社説1本当たり15点」という質問数の目標もこなせるようになる。それによって、研修の長所を実感してもらいたいがあった。

研修には研修当日の新聞朝刊を用いるが、研修後、授業で新聞を活用する際に、それまで読んだ新聞から授業素材を思い浮かべやすくする目的もあった。



10月19日研修



11月6日研修



4)「ハテナソン研修」内容＝11月6日の例

| 研修項目     | 時間数          | 目的                                                                                      | 内容、形態、使用教材、進め方等                                                                                                                                   |
|----------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義       | 30分          | グループワーク「ハテナソン」が有用であることの時代背景を、ワークの前に認識してもらう                                              | 国が進めている高大接続改革は、単に大学と高校だけを対象としているわけではなく、高校に上がるまでの小中学校の教育改革をも目指していること。その際に、従来のものさしが通用しない現代社会で、子どもたちが自分の考えをまとめ、文章化し、相手に伝える力、つまり「書く力」の育成も重視していること、など。 |
| 個人ワーク1   | 3分           | 紙面を部分ごとに眺め、想像力を働かせて、できるだけ多くの質問が浮かぶようにする                                                 | 当日の朝刊、2017年11月6日付・読売新聞18・19面の写真を眺め、思いついた疑問(質問)をできるだけ多く書き出す                                                                                        |
| 個人ワーク2   | 1分           | 紙面を部分ごとに眺め、できるだけ多くの質問が浮かぶようにする                                                          | 同じ紙面の文章を読み、思いついた質問をできるだけ多く書き出す                                                                                                                    |
|          | 1分           |                                                                                         | 「時間が短すぎる」という声が上がったため、時間追加                                                                                                                         |
| グループワーク1 | 5分           | 各人の質問をグループで共有                                                                           | 書記役を決め、各人が書き出した質問をホワイトボードに書き出す                                                                                                                    |
|          | 1分           |                                                                                         | 「時間が短すぎる」という声が上がったため、時間追加                                                                                                                         |
| グループワーク2 | 3分           |                                                                                         | 「開いた質問」「閉じた質問」の長所・短所を話し合う                                                                                                                         |
| グループワーク3 | 2分           | 自分たちの質問が「開いた質問」なのか「閉じた質問」なのか分類することによって、 <u>その質問によって本当は何を聞きたかったのか、知りたかったのか</u> を考えることになる | ホワイトボードに書き出した質問を、「開いた質問」「閉じた質問」に分類                                                                                                                |
| グループワーク4 | 3分           | 質問をより洗練させる                                                                              | 「閉じた質問」を「開いた質問」に書き換える                                                                                                                             |
| グループワーク5 | 7分           | 質問に統一感を持たせ、レポート課題として整える。「この質問の答えを探せば、このような現実課題を解決できるのではないか」と考えさせる                       | 質問の中から最も答えを知りたい三つを選び出し、その三つに回答するレポートを書くとしたらどんなタイトルになるか、チャーミングなタイトルを付ける                                                                            |
| グループワーク6 | 1分           | 各グループの質問を他グループと共有させる                                                                    | タイトルと三つの質問をA3用紙に書き出す                                                                                                                              |
| 全体       | 各1分<br>(10組) | 各グループの質問を他グループと共有させる                                                                    | グループごとにタイトルと質問三つの意味を発表する                                                                                                                          |
| 全体       | 3分           | 各グループの質問を評価する                                                                           | 気に入ったグループの質問に 印を付ける                                                                                                                               |

## 2030年から逆算するハテナソン

2017年11月6日

読売新聞専門委員 松本美奈

- 1 偏差値の高い大学はいい大学か
- 2 浮かび上がる大学の「今」
- 3 Let's try ハテナソン（ハテナ+マラソン）

① 新聞を読む

② 質問づくり

＊質問づくりのルール＊

- ・できるだけ多くの質問を出す
- ・話し合ったり、評価したり、 答えを言ったりしない
- ・意見や主張を疑問文に変える
- ・発言の通りに質問を書き出す

③ 作り出した質問を「閉じた質問」と「開いた質問」に分ける

閉じた質問.....「はい」「いいえ」や、簡単な言葉で答えられる →△

開いた質問.....答えるためには、詳しい説明が必要 →○

④ 「閉じた質問」を「開いた質問」に変える

⑤ 質問に優先順位をつけ、3つ選ぶ

その質問で何がわかるか

4 質問力を武器にする

質問すると○○○○○○○



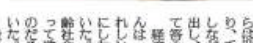
ご質問、ご意見をお待ちしています

松本美奈 minall111@yomiuri.com



す。疑問、提出、え、そ、とも、置間、社会、いる、生が、マ米、り上、して、たか、情が、った、な。

今月7日、立教大学図書館（東京都豊島区）で開かれた「立教・読売プレスカフェ」も「ハテナソシ」の考えに基づき取り組まれた。

[illegible]

「消費」を指す。この「消費」は、経済学でいう「消費」ではなく、日常的に用いられる「消費」である。つまり、この「消費」は、経済学でいう「消費」ではなく、日常的に用いられる「消費」である。

「は、お茶の水」

帝京大 一般教養セミナー  
学生が社会と関わりを持つようになるのだから、これにうながされて、いろいろ活動がスタートした。仲間と力を合わせて、学生がハルバードの政治経済学、ハルバードの政治経済でも比較組の指導者という「ハチナシ」に近づき、

「教養セミナー」を示すので、一つ問題意識をいれ、質問をするのは学生自身だ。毎日読んでいる教科書多岐に質問が寄せ、グループで披露し、内容を補強して、質問と回答の形で、レポートを作成させている。

「質問する力だ、大学の学び、社会と自分の力を伸ばすのに必ず役立つ」と、士持さん自身が「授業」を持つ「俗本義塾」本社が持つ「同朋会」で

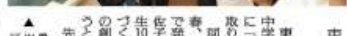
「歴史を競う」浮城さん、藤田さん「質問」を、毎日「質問」として提出し、コメントを添えて返している。

それまで「新入生だ」ともなかった学生が、自ら「質問」を続け、そして、社会に対する関心を深めている。この過程で、多くの学生が日本に生きている日本人が、経験している生活や文化を、大抵は「大抵がどう思っているか」という形で、質問し、どう思っているのか、アソビの人の感覚が、「アソビの人の感覚」に近づいていく。

経済学部の戸田裕美さんは、「『事知解が重要だ』とわかった。関心の対象が、どこにあったか。法学部1年の遠藤月也さんは「『先』にテーマの意識を持って、自分の力で、自分の決める質問をえたい」と意識が鋭くなった。

© 2006 The Authors  
Journal compilation © 2006 Blackwell Publishing Ltd

の方法は、米国の住民連動

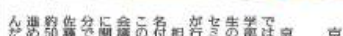


東京都杉  
本校は、  
ハテナ  
ス入校の  
杉山  
さん、田  
さんが  
人々が  
を、  
刊号の  
として  
月19日  
本校に  
出する  
は、

ど、興味わく

ど、興味わく

1



「サナリ」の必修の生命の  
「サナリ」の必修の生命の

広がる関心 近づく社会

[illegible][illegible]





福井・中2自殺 過呼吸など、校長に

また、学校側は、生徒が白傷したり、不登校が2日以上続いたりした場合、町教委や県教委に報告するとが慣例化している。土下座しようとした行動や過呼吸について、県教委の担当者には白傷とは言いにくいとする。複数回あった不登校も1日の欠席にとどまっていた。ただ、担当者は「個々の異変は小さくても、それが積み重なっており、把握しなければいけないかった」と話す。

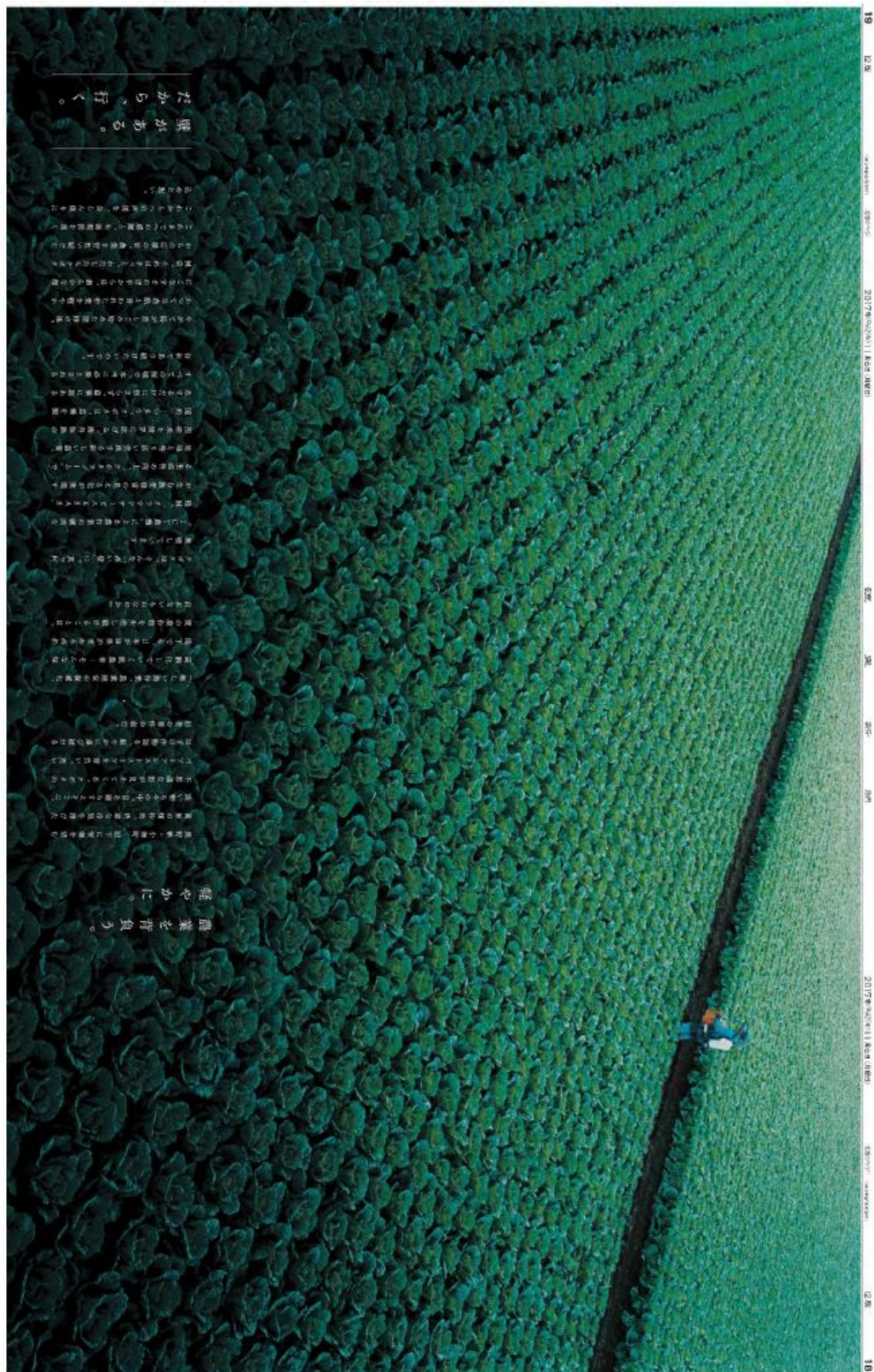
町教委も、学校から男子生徒に関する報告がなかった点を踏まえ、今後まとめの再発防止策では、教職職員が授業や休みの時間の様子を見に行くことを検討していた。

息子が命を懸けて訴えたかったことを、多くの方に知ってもらいたいと思っています。一人でも多くの方が息子のことを忘れずにいてくれることが、私たちの願いでもあります。

の訴え知って」 母親手記

母親手記

来た際にも、叱責してい  
、遺影の前で「つらかっ  
言う姿を見て、自分の犯  
な責任に気付かず、悪い



## 5) 実施上の留意事項

### 「振り返り」の重要性

グループワーク「ハテナソン」を実践した後、児童・生徒に「振り返り」をさせる必要がある。グループワークによって何を学んだか、何を知りたくなったかを児童・生徒一人ひとりが振り返ることで、次の学びにつながると考える。そのうえで、グループごとに話し合いで生み出した「チャーミングなタイトル」と「三つの質問」を基にレポートを書かせれば、より深い学びにつながる。

### 社会への関心を持たせる

2回にわたって行ったハテナソン研修の教材には、当日の朝刊（H29・10・19演習用は同日付読売新聞39（1社）面「担任 生徒の異変報告せず 福井・中2自殺 過呼吸など 校長に」、H29・11・06演習用は同日付読売新聞18・19面の株式会社クボタ広告）を用いた。これは、『ハテナソン研修』開発の実際とその成果・1）研修の背景とねらい」で触れたように、新聞を通じて日々動く社会を知ってもらう目的がある。記事の選び方によっては、教師自身や児童・生徒がこれまで関心を持ってこなかったテーマに注目するよう促すことも可能である。新聞には毎日、なにかしら教材にふさわしいニュース記事が載っているものの、場合によっては、広告や写真、4コマまんが、コラムなどを臨機応変に選び出すことも考えられる。

### 小学校低学年でも実践可能

上述したように、ハテナソンの教材として写真のみを用いることも可能だ。質問を作り出すための知識に乏しい小学校低学年であっても、動植物や風景など、新聞が取り上げる季節感ある写真を教材にすればハテナソンを実践可能だと考えている。

### 時間配分

個人ワーク・グループワークごとの所要時間数を短く区切ったのは、実社会では即応力が求められるため、それを実感してもらうねらいがあった。講師には、研修受講者の反応を見ながら時間数を柔軟に変えることが求められる。

## 6) 研修の評価方法、評価結果

研修受講者に対し、2018年1月下旬～2月末にアンケート調査を実施した。対象者は64人、回収率56%だった。

当プログラムが参考になったかどうかを聞いたところ、「とても参考になった」32%、「参考になった」59%で、9割超が参考になったと回答した。「どちらともいえない」が9%あったものの、「参考にならなかった」との回答はゼロだった。

グループワーク「ハテナソン」を授業で実践したかどうか聞いたところ、2割弱が実践していた。実践に関する自由記述は以下のとおり。

|                                                        |
|--------------------------------------------------------|
| 小学校)新聞ではないが、学習の中で班で知っていることや疑問を出し合い、新しい「ハテナ」を考えていく活動をした |
|--------------------------------------------------------|

|                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------|
| 小学校)疑問を出させる段階で、子供たちは意欲的に話し合っていました。また他グループのことも気になるようで、発表などもよく聞き合っていました。 |
|------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 小学校) 1年生の児童でもよく考えて活動していた(国語の物語文で行った)。グループで熱心に対話をしていて、話し合いの力もついた。                                                 |
| 小学校) 国語の課題作りで実践しました。子供が主体的に考えることができました。「開かれた・閉じた質問」「チャミングな題名」は子供の中で広がりました。ハテナソンの「ソ」は「エジソンのソ」という子がいて、さすがだなと思いました。 |
| 中学校) 選択したページが難しい内容だったかもしれないが、よく集中して取り組んでおり、対話的で深い学びとなっていた。                                                       |
| 中学校) 初めてやったので、説明に時間がかかってしまい、ポスターセッションまで行うことができなかった(50分の授業では時間が足りない)                                              |

ハテナソンを今後実践する予定があるかどうか聞いたところ、7割が「今後実践したい」と回答し、「具体的な実践予定がある」との回答も6%あった。一方、「実践するつもりはない」との回答が1割あった(理由は「7) 研修実施上の課題」参照)。

校内の教員にハテナソンを勧めたかどうか聞いたところ、2割超が既に勧めていた。勧めた相手は、「学年の先生」「教諭(学年担任・専科)」「主任教諭、主幹教諭」「一緒に学年を組んでいる若手の教員」「全職員(レポートで広めた)」「国語科、社会科の教員、若手の教員」「若手と言われる職員や校内研修委員」などが挙がった。

新聞購読については、「とても参考になった」「参考になった」を合わせると5割超が好意的に受け止めていた。

自由記述では、ハテナソンが「主体的・対話的で深い学び」に結びつくとの感想が多く挙がった。以下、抜粋する。

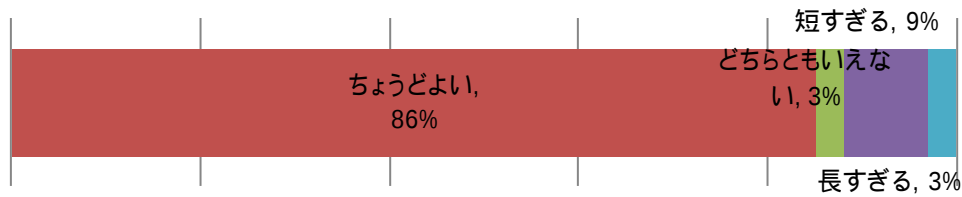
|                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| かたくなった脳を柔らかくするのによい。あまり語ったことのない方と、共に学ぶことができてよかった。                                                                                                                                                      |
| 個人的には、自身が主体的に考え、活動するという意味で大変参考になった。今後、子ども達にどのように実在の授業の中でハテナソンを実践するには自分自身の研修が1回のみでは不安に感じた。                                                                                                             |
| ハテナソンの研修の中で、現在の大学の実情のお話がとても印象に残っています。                                                                                                                                                                 |
| とても面白い取り組みだと思い、自分では高学年を担当したときに実践してみたいが、新聞を購読する料金の問題、教科書の内容を教えるのにキツキツでどの教科でとるかなど、色々しがらみがあるので、他の方には内容を伝えることはした。とてもテンポのよい研修で、自分が実践したいときにすぐ真似できそうなものだったことが、とても参考になった。時事問題を身近に感じることができる内容で、児童にも考えさせたいと思った。 |
| 新聞の一面で、あんなにも考えさせられ、そして考えることができるのだと大変勉強になりました。グループで「1つの答えを出す」ということは、授業の中で取り入れられそうなので活用していきたいと思いました。                                                                                                    |
| 1つの記事で5つ6つと複数質問を考えることは難しかったので、毎日全部の記事に対して、質問を書き出してみた。自分の苦手も見えてきて、とても勉強になった。                                                                                                                           |
| 研修の機会をいただき、ありがとうございました。どのような学習(活動)の際に有効な手立てとなるか、実践し改善していきたいと思います。                                                                                                                                     |
| 思考のスピードが要求されましたが、確かに現実の場面では、しめ切りのものはありません。大変印象的でした。                                                                                                                                                   |
| 自分で問題を作っていくという内容が、正に今後、日本の社会で大切なことだと考えるからです。小学校から、その                                                                                                                                                  |

|                                                                                                                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 力を養っていくことは必要です。とても有意義な研修をしていただき、ありがとうございました！                                                                                                                                     |
| 考える時間が短く、短い時間で意見を出すのが大変だった。小学生では、個人のレベルの差が大きいので、何も意見を出せない子も出るだろう、と思われます。その時、その本人がどう感じるかなと・・・                                                                                     |
| 現在受けもっている低学年より高学年で生かしていけると感じた。高学年を受けもった時実践したい。また、担当する校務分掌の会議で生かすことに努めた。                                                                                                          |
| 課題発見力の大切さは知っていましたが、どのような方法でスキルを身につけるかが難しかったので、方法の一つとしてとても参考になりました。                                                                                                               |
| 松本先生の研修を2回受講した。グループで話し合って質問をまとめていく活動が頭を使って楽しかった。ギモンを持つことはとても楽しいと感じた。                                                                                                             |
| 担任している学年が1年生(小学校)のため、すぐ実践することは難しいですが、問いをたてることの大切さは、わかりました。もう少し上の学年になったら、取り組んでみたいと感じました。                                                                                          |
| 今の、そしてこれからの子供達に必要な力は何かと改めて考えさせられ、大変勉強になりました。来年度以降も実践、また広めていきたいと思います。ありがとうございました。                                                                                                 |
| 疑問を作る難しさと、逆に楽しさの両方を体験できるプログラムだと感じた。奨学生にそのまま実践することは難しくても、手元の情報から疑問を集め、そこを調べていく手法は総合的な学習の時間等で必要な力だと思います。こういった研修で広めていくことも大事だと思います。                                                  |
| 研修はとても有意義なものであった。質問力が対話力をつける、質問すること、されることで1つの物事でも多面的・多角的にとらえることができたり、より深く考察したりすることができるということを実体験を通して認識できた。授業で効果的に活用したいです。また、松本さんのテンポのよいリズムでどんどん進められたのが、あっという間の90分でした。ありがとうございました。 |
| 毎日の忙しさで新聞を真剣に読むことは少なかったのですが、宿題になって、久しぶりに集中して社説を読むことができました。                                                                                                                       |
| 新聞を読むときに、(それ以外の文章でも)書き手の意図を推察しようとする意識がより強くなったと感じます。ありがとうございました。                                                                                                                  |
| 校内研修会でグループワークを紹介して、行ってみた。準備に時間をかければよい取り組みができると思うが・・・。従来教員の資質として必要とされているものだけでは児童生徒の多様な考えに対応できないような気がする。                                                                           |
| ぜひ授業で実践したいのですが、カリキュラム、授業時数の関係で実践をためらっています。せっかく研修を受けたので、どこかでは実践したいとは考えています。                                                                                                       |
| 疑問をもち続けると知識が増える気がした。問題点として1肯定や意見の時間があまりにもないので個人の関心に差がでそう。2研修での社説の内容では、わかりきっていることを共有しただけだった。他の内容で人間がどうなっていくのか知れたかった。                                                              |
| 研修を受けた時間があっという間に過ぎてしまったことから充実した内容だったと思います。自分たちが体験した内容を生徒たちにもできたらいいなと思っています。                                                                                                      |
| 質問を考えるためには、記事をしっかりと理解することが必要になり、ただ読んでいたときよりも、興味をもって読めた気がする。「なぜ?」「どうして?」を考えながら読むことは、自分にとって、いい勉強になった。                                                                              |

### ハテナソン研修は参考になったか



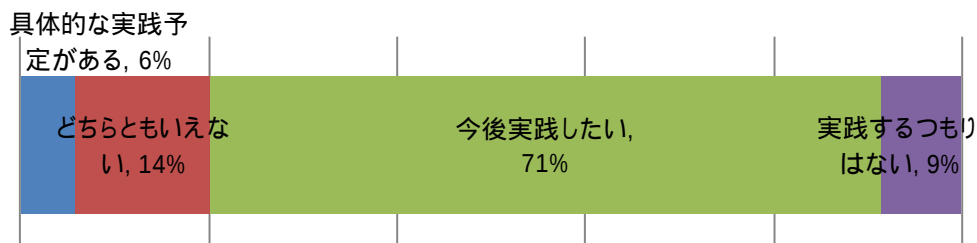
### 研修の所要時間



### 授業でハテナソンを実践したか



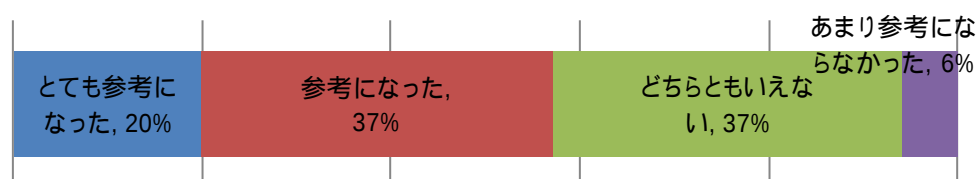
### 今後実践する予定はあるか



### 校内の教員にハテナソンを勧めたか



### 新聞購読は役立ったか



研修受講者の所属する小中学校の校長に対し、2018年1月下旬～2月末にアンケート調査を実施した。対象者は64人、回収率58%だった。

ハテナソン研修が学校経営の参考になったかどうか聞いたところ、「とても参考になった」「参考になった」合わせて97%で、「あまり参考にならなかった」との回答は3%だった。

自由記述はおおむね好意的だったが、学校現場のゆとりのなさの指摘が目立った。以下抜粋する。

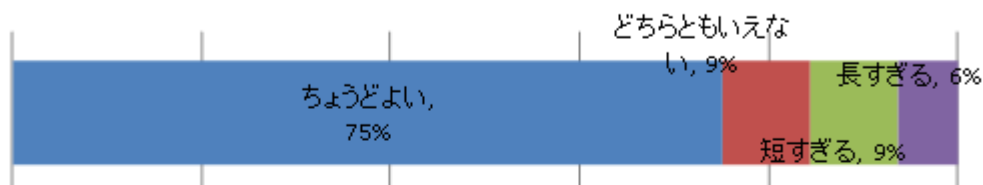
|                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| とてもおもしろい(楽しい)活動だと思うが、こうした活動を組み立てるための準備の時間、ゆとりがないのが、学校現場の実情であり、日常的に実施することはむずかしい。                                                                                        |
| 研修には副校長が参加し、教員に伝えた。それぞれの教員の力量差があるので、できそうなところから少しずつはじめていきたい。                                                                                                            |
| 大変興味深いものと思います。ただ指導者の力量により、効果が変化すると感じます。読み取る力や発信する力が養えるものだと思います。チームの調整についての同様。もう少し研修を積ませ、実践できるようにしたいと思います。                                                              |
| 研修受講者に関しては、ハテナソンと似たような活動をこれまでも、学級で実践したことがあったので、それなりの効果は感じ取っているようである。校内においても、同様ではないが教育に考える機会を工夫している。今後は、ハテナソンの手法を生かしながら、考える子供、考える教師を育てていきたい。                            |
| ハテナソン研修を受けた主任教諭が途中より産休に入ったために成果の検証までには至らなかった。本校で開発に協力した「円たくん」(円形ホワイトボード)の活用を推進しているので、それとコラボした形で取り組みれば、さらに可能性が広がると感じた。研修の機会を与えていただき、ありがとうございました。                        |
| 新聞などの資料からの情報の取り出し方、その分類・整理の仕方、話し合うためのツールの活用の仕方などについて研修が役立ち、方法の引き出しが増えている。学んだことを授業で活用している。                                                                              |
| ハテナソンの手立ては、学校経営上の課題把握と解決法から児童が主体的に学んでいくためのツールまで、幅広い活用ができると感じた。本校の研修体験教員は研究推進委員であるため、主体的・対話的で深い学びを授業内の場面でつくり出す際にハテナソンを参考にしていた。私の場合は校長会の体験だけなので十分でないが、特に課題を挙げる場では活用している。 |
| 都オリンピック事業で元オリンピック選手訪問と研修が重なり、欠席しましたのですべては回答できませんでした。申し訳ございません。                                                                                                         |
| 研修を受けた教員は低学年向けのアレンジに悩んだ。自己の学級で対話的活動を意図的に設定した。校内に広げるために校内研究会でも主体的・対話的活動を通して協議をしてきたが「ハテナソン」を生かしてとまではいかなかった。松本専門委員によるグループワークはインパクト大である。多くの教員が体験できるとよい。ゼイタクですが・・・          |
| 学校では、現在様々な地域の教育力を取り込んでおり、刺激や情報を受け、授業づくりや学校のものだけでなく、連絡や調整の打ち合わせ、会議等精選は図っているものの研究・研修も本校に実態に合わせて実施している。「ハテナソン」の価値は十分に理解でき、脳内を活性化してくれるものですが、まとまった時間を作り出すのが難しい。             |
| ハテナソン研修を受講した主任教諭は、研究主任であり本校の校内研究のテーマ「もっと知りたくなる授業の創造」、サブテーマ～主体的・対話的で深い学びを求める実践～を推進するにあたり、研修の成果を発揮することができた。                                                              |

|                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 別の研修でハテナソンを学んだ教員が継続して取り組み成果をあげている。ハテナソンの手法は、今後取り入れていきたい。                                                                                                   |
| 情報活用において、主体的・対話的で深い学びを実践していくことに、有効であると考え。どのような学習の場（教科、単元等）で活用できるのかを考えたい。                                                                                   |
| 新聞を使った授業は大切だしおもしろい。記事全てがどこまで事実か真実かというところでは、小学生には全て事実であり真実であってほしい。もう少し研修を積むなかで教育の中で扱ってはどうか。なぜ広まらないか、それこそ今の教育をあらゆる根幹的な課題があるのではないか。                           |
| 受講した教員からは、今現在はハテナソンの授業実践は行えていないが、機会を見つけて、子供たちにやらせてみたいと思っているという話を聞いている。課題発見や課題に対して主体的に考える力を身に付けさせるためには有効な方法であると考えているので、今後広めていきたい。                           |
| 多様な考えを交換するよい学びの場である事は理解できた。また、限られた時間での思考の（活性）深まりは体験できた。教員研修にはヒットするが小学校の教育活動場面への活用は開きがあると思いました。                                                             |
| 多くの教員が体験できる機会を作ってくださると助かります。                                                                                                                               |
| 校長会で私自身「ハテナソン」の研修を受けて、とても楽しかったし、新しい視点をいただいた気持ちになりました。30年度の校内研修会で是非実施したいと考えております。その折は、どうぞ御相談にのってください。ご指導をよろしくお願いいたします。                                      |
| 校長会の人数では、75分は少し短いと思いました。学習では「考える」ことが大切だと常々思っています。ハテナソンのように考えるための課題をうまく設定させ、生徒の学力向上につなげていきたいと思っています。                                                        |
| 新聞を活用し、焦点をしばった指示から生徒の考えを広めて考えを深める手法は、とても興味深いものだった。少人数で、どの生徒も参加し、協働で学べる機会として有効活用できる場면을模索したい。連続して、計画的に授業を展開する支援が、依頼できればよいと考えている。                             |
| 本校は区教育課題研究（H29、30年度）指定校として「主体的・対話的で深い学び」を通した学力の向上の研究に取り組んでいる。ハテナソンの取り組みは報告を受けて知っているが、推進委員が実践に生かしているかと問われれば？である。学校独自に外部講師を招いているためかも知れない。今後確認を含め、活用を図っていきたい。 |
| 意義ある教育活動であると認識している。しかし、現場教員の多くは、意欲・能力等千差万別の生徒集団で、時間を確保して質の高い活動をするための具体的な手立てが見つけられていないと感じている。実践資料等の例示があれば、試行する学校が増えると考え。                                    |
| 授業にどう生かしていくのが教科によっても様々だと思った。                                                                                                                               |
| 主体的・対話的で深い学びを実現するためには、まず指導する教員自身が主体的・対話的で深い学びを経験していくことが大切と考えます。そういう意味でも、大変実り多い研修だったと思っています。                                                                |
| 高学年には効果的で、考える力や協働する力が伸びそう。学級活動等で取り入れると良いと感じた。                                                                                                              |
| 教員の研修としては、とてもよい。全ての職層で研修することで広まってくると思います。                                                                                                                  |
| 今までの学校での授業スタイル（教員の職務や意識も）は、情報を受動的に消化するものだった。「ハテナソン」では情報に能動的に反応する活動を行い、「自分で考え発信する」よい訓練になった。「主体的・対話的で深い学び」が体感できる取り組みだと思った。                                   |

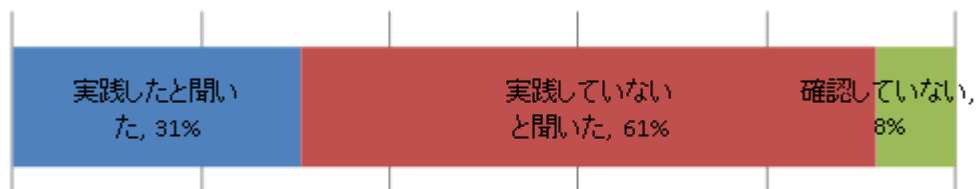
### ハテナソン研修は学校経営の参考になったか



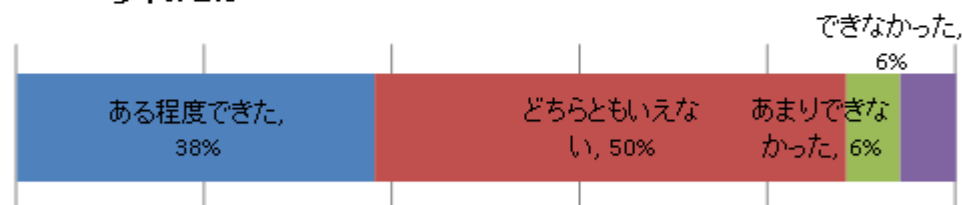
### 研修の所要時間



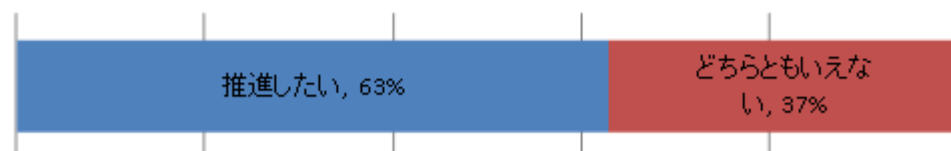
### 研修受講者が授業実践したかどうか確認したか



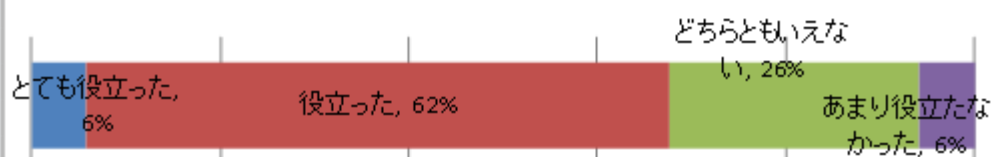
### 研修受講者は授業力向上・資質向上に結び付けられたか



### ハテナソンを今後推進する予定はあるか



### 新聞購読は役立ったか



## 7) 研修実施上の課題

研修受講者に実施したアンケート調査で、「ハテナソンを今後実践するつもりがない」と回答した研修受講者の自由記述からは、ハテナソンを小学校低学年で実施することへの抵抗感がうかがわれた。また、教科の内容を優先するとハテナソンまで手が回らない、との趣旨の回答もあった。

|                                                |
|------------------------------------------------|
| 小学校1年生の担任なので、5・6年ならできるかもしれないが、高学年を担当する予定がないため。 |
| 限られた授業時数の中では教科の内容を終わらせるだけで精一杯だから。              |
| 高学年ならば実践可能かと思うが、高学年ほど時数のゆとりがない。現状では難しい。        |

しかし、先述したとおり、ハテナソンは「H29・11・06演習」のように、写真を使っても実施可能で、必ずしも長い文章を読ませる必要はない。小学校低学年でも実施可能である点をもっと強調する必要があったと考えられる。

アンケート調査で、「ハテナソンを校内の教員に勧めるつもりがない」との回答者にその理由を聞いたところ、「(小学校)その余裕がないし、小学校では効果を感じられない」との回答があった。これも、上述したとおり、小学校向けの実施方法についての言及が必要だったと考えられる。

研修受講者の所属する学校長へのアンケート調査で、「ハテナソンを今後推進する予定はあるか」と聞いたところ、「ない」との回答は皆無だった。一方で、「持ち時数の多い小学校の教員にとっては通常の授業の教材研究も十分にできない状況にあって、ハテナソンの準備をする時間の確保がむずかしい。教員の意欲次第のところがある」「推進していくためには、何かを削らなければならず、今考えているもの推進しているものをまず充実させたい」といった自由記述があった。

ハテナソンは、新聞から時事的テーマを取り上げつつ、教科の内容に即して実施することも可能だが、実践には教員の習熟度・理解度を上げる必要がある。ハテナソンをより普及させるには、研修を複数回経験する機会を設ける必要があると考えられる。

### 連携による研修についての考察

本プログラムは杉並区教育委員会(区立済美教育センター)による全面協力を得られたため、区立全小中学校の校長・園長、副校長・副園長にもハテナソン研修を実体験してもらう機会を得られるなど、研修受講者がハテナソン研修を自分の授業で実践するにあたってバックアップを得られる素地をつくることができた。また、中学校1校では、校長の協力を得て通年でハテナソン授業を実施することができ、深い関心を持つ研修受講者が授業実践を視察することができた。

### 1) 学校管理職研修

杉並区教育委員会による校長・園長研修(11月9日)、副校長・副園長研修(12月19日)でも、グループワーク「ハテナソン」の簡易版を実施し、研修を受けた教員が各小中学校でグループワークを実践するよう後押ししてもらうことを目指した。

### 2) 視察

杉並区立済美教育センターが主催する平成29年度重点研修「主体的・対話的で深い学びのための指導方法の研修(3回)」の初回(4月)で、「可能であれば、杉並区立神明中学校の総合的な学習の時間(毎週金曜日)に行われるハテナソン授業を視察する」という課題を課した。その結果、同中学校に

よると、複数の他校教員がハテナソン授業の視察に訪れた。

その他

[キーワード] 主体的・対話的で深い学び、アクティブ・ラーニング、質問、新聞、ハテナソン、グループワーク、書く力、自ら問う力、自ら考える力、調べ学習、学習指導要領

[人数規模] D . 5 1 名以上（より少人数でも可）

[研修日数(回数)] B . 2 ～ 3 日（ハテナソン研修自体は1日でも可）

【問い合わせ先】

読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局

〒100 - 8055 東京都千代田区大手町1 - 7 - 1

TEL 03 - 3217 - 1484

東京都杉並区教育委員会

区立済美教育センター

〒166 - 0013 東京都杉並区堀ノ内2 - 5 - 26

TEL 03 - 3311 - 0021